

はしど



平成30年 5月 1日
学校だより 第2号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊哉
<http://www.hashido-e.nerima-tyky.ed.jp/>

☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

はじまるよ 本のカーニバル！

校長 青木 俊 哉

4月23日は「子ども読書の日」でした。シェークスピアやセルバンテスの命日でもあるこの日は、ユネスコにより「世界・本と著作権の日」に宣言されています。我が国では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」により、「子ども読書の日」と定められ、“子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所を”との願いから、地方自治体や関係団体に取組を進めるよう求めています。こんな話を、当日の全校朝会でも簡単に紹介し、各地で本に関するイベントがあることも知らせました。もともとは、こどもの日を含む2週間を「こどもの読書週間」と名付けていたようですが、今では4月23日から5月12日までの3週間が「子ども読書週間」となり、今年はこの原稿のタイトルにした「はじまるよ 本のカーニバル！」をテーマに、練馬区でも地域図書館を中心に様々なイベントや取組が進められています。本好きな子供たちが育つきっかけになれば、嬉しく思います。

本は心を豊かにします。また、本は人を賢くします。
本を読むことで、知恵を身に付け、知識を深めます。興味・関心を高め、“**知的好奇心の扉を開くスイッチ**”とも言えます。絵本や物語などの文学書、図鑑や事典の類、科学読み物、ノンフィクションや伝記など人の生き様に触れる本など、関心をもつ分野は様々かと思いますが、本を手にとれる環境を用意することは、我々大人の務めでもありますから、学校、家庭それぞれの立場で、子供たちのために取り組んでまいりましょう。

学校では、教科・領域の学習の時間や学校行事、特活や学級での取組を通して、本に親しむよう働きかけています。国語の学習では、単元の教材に合わせて関連する本を読む活動や、教材文を読み進めたあとにその作者の著作を読む活動を取り入れています。社会科や総合的な学習に時間などで課題に取り組む際に、図書室の本や資料を検索し、活用することもあります。本校では、開放型図書館の特徴を生かし、学校応援団のスタッフや保護者ボランティアなど、保護者・地域の皆様の支えにより、学校図書館を運営しています。読書旬間でのおすすめ本の紹介や図書委員会児童の活動もあり、年間通して取り組んでいます。

家庭ではどうでしょうか。低学年でしたら、まずは「**読んであげる**」ことから始めましょう。子供が自分で読みたがるようになったら、「**一緒に読む**」ことをお勧めします。大人が読ませたい本に無理に引っ張るのではなく、我が子がどんな本に興味・関心をもつか、手にしたがる本はどんな本かも、「**一緒に読む**」ことで自ずとつかめます。中・高学年になれば、一人で読むことが増えると思いますが、ここでもパッと手放してしまうのではなく、「**読む時間を共有する**」ことも有効です。読む本は別々で構いません。家族一緒に、本を読む時間を共に過ごす習慣ができるとういんですね。

“本は、心と頭の栄養剤” 「子ども読書の日」をきっかけに、本好きな子が増え、本の話で盛り上がることを期待しています。